

ごあいさつ

令和5年4月より本校第28代校長として赴任いたしました、田中篤と申します。本校の更なる教育の充実にむけ尽力して参る所存です。今後とも本校の教育活動に対して、御理解御協力をよろしくお願い申し上げます。

さて、本校は今年で創立123年目を迎える伝統と歴史のある学校です。明治33年、初代校長の野田寛先生は、「士君子たるの修養」を本校教育の中心に置くことを示されました。この建学の精神は、4万人を超える卒業生の方々に受け継がれ現在に至っています。それらを踏まえ、現在本校では脈々と受け継がれてきた不易の部分を大切にしながら教育活動に取り組んでいます。

野田先生の教えが今も息づいていることを象徴するものが本校の正門の門柱です。



本校の正門には、校名の表札がありません。創立から120年を越える程の伝統のある学校ですので、立派な表札があってもおかしくはないのですが、本校にはありません。それどころか、写真で分かるように門柱の下側の部分は削られたような跡があり、へこんでいます。この門柱には次のような謂われがあります。

この門柱は、元々熊本城正面の入り口の下馬橋の橋脚でした。この橋が架け替えられるとき、野田先生がもらい受け本校の門柱としたそうなのです。そして、そこには「『たとえ世に知られなくとも社会の礎たれ』という野田校長の教えが込められている・・・ここに野田校長の『士君子たれ』という無言の教えが確かに込められている」（『熊中・熊高百年史』上巻33頁）と言われています。

野田先生が本校創立時に掲げたこのような理念は、時代を越えて今でも色褪せることなく、教育的な価値を有しています。

こうした教えをしっかりと受け止め、本校は、日々の教育活動を進めて参ります。